

# タイ Khon Kaen 大学 医学部 セミナー

2015 年 12 月 16 日～12 月 19 日

2015 年 12 月 16 日から 19 日にかけて、島根大学医学部の鈴宮教授のご厚意によりタイのコンケン大学でセミナーに参加してきました。当講座は今回が初の参加で、橋本教授をはじめ専攻医の村上、金居が参加してきました。

コンケン県はタイの東北北部に位置しており、コンケン大学はタイの国立大学です。

17 の学部があり、約 34000 人の学生が在籍しています。大学の規模も大きく、全長は 13km もあり大学構内はバスを使って移動します。

やや古い情報(2009 年)ですが、タイの医師数は約 2 万人いてこのうち病理医は 500 人しかいないそうです。コンケン大学のレジデントの話では、来年病理専門医を受験する病理レジデントはタイ全土で 20 人しかいないそうです。

12 月 16 日は移動日で 17 日からセミナーが開催され、17 日は橋本教授と村上先生が発表を行いました。橋本教授は福島県の紹介と症例発表を、村上先生は症例発表をそれぞれ英語で披露しました。

上:橋本教授 下:村上先生



コンケン大学の病理診断科のレジデントの先生方が珍しい症例について顕微鏡を使いながら紹介しています。活発な質疑応答が交わされます。

左:タイの病理レジデント

中央:鈴宮教授

右:村上先生

18日はコンケン県の地域医療の様子を視察しました。タイでは医師の偏在による地方の医師不足が問題となっており、診療所には常勤の医師が1名いて、小児科や歯科などは曜日ごとに医師が派遣されるかたちをとっています。こういった問題を解決する目的でタイでは health volunteer の方たちが活躍しています。health volunteer の方たちは病気の人や高齢者のいる家を訪問し、病気の早期発見や健康教育に努めています。

また、タイでも高血圧と糖尿病が問題になっていること、大気汚染による喘息が増加していることなども説明がありました。



タイの診療所で

19日は Professor Banchob Sripa による住血吸虫による胆管癌発生の講義を受けました。

コンケン県のあるタイの東北地区では胆管癌の発症率が高いことが問題となっていました。

これは、タイの東北部では生の川魚を食べる風習があり、これらの寄生虫に汚染された魚を食べることで人に感染し、慢性炎症による肝硬変や住血吸虫感染による二口化などの DNA 損傷が原因で胆管癌が発生してしまうそうです。

Prof, Banchob Sripa が研究を開始した 2008 年の時点では川魚の 70%に住血吸虫がいましたが、教授らの熱心な教育や啓蒙活動の結果、現在は住血吸虫に感染した魚は 1%未満にまで減少しているそうです。



Professor Banchob Sripa による講演

勉強だけでなく、観光案内もありました。

コンケン県で有名な 9 重の塔、



コンケン県の中心部 町の礎石を祀っています。

